

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

乳幼児期の発達についての基礎的な知識を学びながら、乳幼児への理解を深め、さらに「子どもの発達にとって大事なものはなにか？」について考える視点を身に着けることがこの授業の目的です。幼児や保護者へのセラピーやアセスメントのスクールカウンセラーとしての実践経験を活かし、具体的に幼児を支援するための方法について学べるようにします。子どもの姿を理解するためのエピソードに関する事例考察や模擬カウンセリングを通して具体的な支援技術や問題省察の方法を学べるようにします。さらに、最新のトピック、映像教材を用いて、場合によってはディスカッションを行います。

授業計画

第1回	オリエンテーション：幼児理解の原理について概観し、幼児理解の意義や教師として必要な態度は何かについて考察を行う
第2回	乳児の有能性：乳児が備えている能力の理解と発達における優位性の理解
第3回	コミュニケーション発達：親子間対話の理論や対話を促進させる乳児の能力と親の心情、対話のつまづきに関する理解とその対処方法
第4回	アタッチメント発達：愛着理論や愛着の発達が幼児と親に与える多様な影響ならびに愛着発達のつまづきの理解とその対処方法
第5回	情動・コンピテンス発達：情動の発達に関する理論とその観察方法の理解
第6回	気質発達：先天的な気質と性格に関する理論とその観察方法の理解
第7回	認知発達（1）ピアジェの認知理論と感覚操作期における観察方法の理解
第8回	認知発達（1）ピアジェの認知理論と前操作期以降の観察方法の理解
第9回	言語発達：言語発達に関する理論とその観察方法の理解
第10回	遊びの発達：遊びと社会性に関する理論と個と集団活動での観察方法の理解
第11回	記憶・知能発達：記憶や知能の理論や知的発達の障害とその観察方法の理解
第12回	幼児の強みの理解：子どもの強みを観察するための教師の態度の理解と演習
第13回	事例考察：発達の障害の理論や実態ならびに子どもと保護者の心情を理解し、教員として対処するための基本的な態度やその意義についての理解と考察
第14回	模擬カウンセリング：特別支援や障害支援の理論と実践や子どもと保護者の心情理解、教員として対処するための基本的な態度やその意義についての理解と考察
第15回	幼児期の多様な課題について再度概観しつつその意義や求められる教師の態度について考察
第16回	総まとめ（定期試験）

※受講者の興味関心や進度に応じて一部変更を行う場合があります。

到達目標

- ・幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。
- ・幼児理解の方法を具体的に理解する。

※乳幼児の発達に関する基本的な知見や知識を理解し、考察を深めることを目標とします。

履修上の注意

- ・原則20分以上の遅刻は欠席、遅刻は3回で1回の欠席とします。6回以上の欠席は、成績評価の対象外とします。
- ・小課題やディスカッション課題などを適宜行います。
- ・注意事項について初回の授業時に伝えるため、**初回授業には必ず出席してください。**
- ・本科目は心理学科開講の「乳幼児心理学」とは別の科目です。
(故に、心理学科の選択必修科目として本科目を履修することはできません。)

予習復習

復習を中心にしてください。授業の復習を身に着けるように心がけてほしいです。

評価方法

授業態度・参加度（20%）、小レポートやペーパー提出（30%）、定期試験（50%）、これらを踏まえての総合評価

テキスト

毎回プリント資料を配布します。必要に応じて参考図書も紹介します。

【全体を通しての参考図書】

学習指導要領

内田伸子 2008 よくわかる乳幼児心理学 ミネルヴァ書房

岡本依子他 2004 エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学 新曜社